

〔厨事類記〕御膳

春宮御方

記云殿上大盤朝略

湯漬菜一種前同酢鹽箸自聽給料物所已上主殿司請之辨備之略中

精進物十種汁一種湯漬菜以上刀自渡進之

〔三中口傳〕亭主供膳事

同包折敷五枚 一枚御酒

一枚御比目

一枚御菜

一枚御湯

已上盛白土器

〔三中口傳〕湯漬暑預粥隨見在事付供儀

湯漬暑預粥隨見在供之 若宮入御二條大納言宗被計申之也

〔世俗淺深秘抄〕一關白如子息於院殿上付簡時納言院司著殿上行事仍居湯漬事六位役之是嘉承例也

一同人内裏若院ニテ居湯漬時用土器是近例也然而甚見苦事也敢以不可然事也

〔日中行事〕藏人だいはん所のすのこに高欄に手をかけておもものまいると奏すあるひは主上大

床子につかせ給大床子のはしにひぎをかけてのぼりてゐざりよりて圓座にうるはしく御座

ある也はいせん圓座の上にあるながらあむをにがしてけいびつすもとより出御あらば陪膳え

んぎにておもものを奏する也うるはしくめすべきを近代はよしばかり也ゆづけをめす事あり

陪膳まいりて御はんをわけて御ゆのきに入て出せば藏人御湯づけもちてまいるなりあしは

て御は七を飯にたていせ給うるはしくめさずば御さばをとりてあまがつに入てたて

させ給ふ略下

〔御成之記〕式之御成の次第